

MADOCA 利用検討会 設立趣意書

近年日本では、カーナビ、携帯電話に代表されるように、衛星測位による位置情報は重要なインフラとして位置づけられています。また、2018年より正式運用を開始する準天頂衛星では、センチメートル級の測位補強情報の配信が始まり、新たなサービス産業の確立等、位置情報の更なる利活用が期待されています。

しかしながら、準天頂衛星によるセンチメートル級の測位補強情報は当初は日本とその周辺海域を対象としており、アジアオセアニア全域への対応は今後の検討項目となっております。

そのような状況の下、国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構（JAXA）ではグローバルな測位補強情報を生成する純国産技術（MADOCA）を保有し、その技術実証が数年に渡って国内外で進められてきました。MADOCA で生成した測位補強情報を用いれば、これまで困難であった海外諸国や海洋上でのセンチメートル級測位を比較的容易に実現できるため、近年益々グローバル化が進む企業の製品展開を支える基盤技術として様々な分野から高い期待が集まっています。また、自動車や農業、防災などのアプリケーションで実際に検証を行う動きも年々増えてまいりました。

MADOCA の測位補強情報は衛星側のバイアス補正に基づくものであり全世界で共通した内容となるため、各アプリケーションでは一元化された測位補強情報を利用することが効率的であり望ましい形態となります。このため、各分野で協調して MADOCA の利用を進めるべく、ここに「MADOCA 利用検討会」を設立いたします。

本検討会では、MADOCA により生成した測位補強情報を用いたセンチメートル級測位に関する技術的仕様や性能を共有することでアプリケーションの更なる開拓を促進するとともに、これまで個別に行われてきた実用化調査などの検討を分野横断的に協調し、必要な提言も行ってまいります。

以上

平成 28 年 4 月

設立発起人代表 東京大学 柴崎 亮介